



TITLE:

アボト博士「太陽」新版出づ

AUTHOR(S):

山本, 一清

CITATION:

山本, 一清. アボト博士「太陽」新版出づ. 天界 1930, 10(107): 117-119

ISSUE DATE:

1930-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/161512>

RIGHT:

アボト博士「太陽」新版出づ

山 本 一 清

米國スミソン學院 Smithsonian Institution の天體物理天文臺長アボト氏 C. G. Abbot が「太陽」THE SUN を書いたのは今から 19 年も前のことである。之れは元來アメリカに於ける太陽研究の先驅者ヤング C. A. Young 博士の著「太陽」にあやかり、尙ほ此のヤングの書が當時既に絶版になつてゐたのを残念に思ひ、其れに代るつもりで書かれたものである。しかし此のアボト氏の初版さへも今は容易に手に入らなくなり、又、最近年の太陽研究の進歩によつて、1911 年の初版の内容は可なり時代おくれになつて了つたので、遂に今度第二版を出版するやうになつたのを機會に、いろいろ改訂増補せられたものである。

今、此の第二版を手にして見るに、大體の體裁も、内容も、豫期したほごに變つてゐない。此の新版の序文に於て、

『1911 年と 1928 年との間には、太陽に關する吾々の見方が大變化を來したことは確かである。殊に其の最も重大な相違は、太陽内部の性質に關する考へが、エデントンの古典的論文と、原子の内部に關する吾人の知識が大に進んだことによつて新しくなつたことである。』

太陽の本質が（但し其の中心部を除いて）全く氣體であり、輪廓がはつきり見えてゐるのは單に光學的及び幾何學的理由によるのであつて、決して光球が雲のやうなものではないといふ考へは、著者が 1911 年の頃に深く注意を起し、論議を盡したものであるが、此の考へは（僅かの訂正だけで）今は勿論確立した。従つて、舊式の説は只もはや歴史的の興味があるのみである。

多くの研究がなされて、太陽輻射線のエネルギーに關する吾人の知識は増大した。此の輻射線の、殊に全輻射だけでなしに、かの近年益々重要視せられる紫外線の規則的な測定が組織化されて來た。太陽輻射の研究が人の大なる興味を惹くのは、保健、氣候、無線通信、其の他多くの

地上の問題が關係する所多いからでもある。

太陽スペクトル線の波長の精密な測定や、其の解釋も近年大進歩をした。又、年の進みと共に、日蝕觀測の新しい機會も與へられた。

こゝに「太陽」の再版に當つて、すつかり書き改めないで好い程度に於いて新知識は成るべく多く採り入れ、誤りを訂正し又は省略するここに力めた。』

と書いてゐるので、此の書の内容はほど見當が付くわけである。

各ページを見て行くうちに、上記の序文の最後の一節の努力が忠實に守られてゐるこゝが明らかに眼につく。書物の始めから終りまで、殆んど總てのページの頁目も字くばりも初版のまゝであつて、只、最後に頁数が第433頁で終つてゐるのは（初版は448頁）、主として、最後の第八章「星々の中に於ける太陽」の大部分を近代的に書き換へたからである。其の他に尙ほ大に書き改められたのは、第六章「太陽は何ぞや」と、第七章「地球の熱源としての太陽」とである。しかし此の兩章ともに、章の終りの頁数は初版と同じであるから、書き換へはよほど巧みに行はれてゐる。

すこしうがち過ぎた言ひ方であるが、此の第二版は、（出版社の都合もあつたのだらう）なるべく初版の紙型を其のまゝ利用しようとしたものらしい。それで、第46頁や第60頁や第89頁などを見て、初版と新組み版との區別が明らかに見えてゐるし、一つ滑稽なこゝには、第299頁の第3行目に、元の紙型の切り取り方を誤つて、ing といふ文字が置き忘れられてゐるのは氣の毒でもある!!

しかし、再版書の方針としては、實は之れで好いのであつて、自分は何も舊い紙型の利用を嘲ふのではない。マイケルソンの光線速度の新しい價や、太陽の有効温度の數値や、其の他、最近の物理研究から得られた幾つかの恒數を、面倒も厭はずに舊紙型の中へはめ込んだ忠實さは感心である。かくて、此の書は何と言つても、現代的に目出たく甦つた立派な「太陽」書として、推賞するに足るものである。

此の書は、嚴密に言へば、通俗書である。しかし自分が思ふに、一體書物といふものは此の位の程度が最も健全なのであつて、「専門家も座右に

具へなければならぬ通俗書」こいふのが、いはゞ理想的である。——こいふ意味は、専門家にも通俗者にも讀まれる書物、換言すれば書物としてひろく賣れる書物こいふことであつて、従つて、出版書肆にも利益の多い書物であるこいふ意味である。世には、専門家のために好いけれど、さつぱり通俗人士に推薦出来ない書物がある。それを以つて出版屋はもうけしやうとして世間の大眾を釣らうとするから、いろいろの無理が出来る。尤も、自費出版ならば格別である。いやしくも、書物を書いて（殊に日本語で書いて）、明らかに賣り得ないものを、只、廣告文によつて大眾人を釣らうとするのは良くない。我が國にも、アボト氏の、此の程度ならば、著者も、出版屋も、讀者も、皆が喜ぶであらう。

事務室より

昭和五年年頭に際し、會員諸君から、激勵の年賀狀を多數頂きました事を厚く御禮申上げます。

四年末で合計の締切を致しましたから御報致します。會員諸君の甚大な御後援により、又時節柄會計の方も非常な節約を斷行した爲め、幸に次の様な結果を得ました。

昭和四年中の收入

會費及觀測部費	3,056.68
賣上代金、天界、恒星圖、エハガキ等の賣上	369.72
廣告料	165.—
雜益 年鑑印税、入會金、寄附金、振替貯金利息等	330.98
	<hr/> 3,922.38

支出

天界、天文語彙、天界總目錄作成の費用	2,758.—
別刷費用	66.89
通信費 天界、プレテン、其他の送料、通信費一切	186.62
雜費 封筒、筆紙、年鑑作成費用、諸手数料其他	144.34
印刷費 恒星圖、變光星星圖の印刷費	44.25
觀測部費 プレテン印刷費其他	60.—
事務費	600.—
	<hr/> 3,860.10

差引62.28の剩餘金は前年度までの損失金の償却に當てる

合 計 池 田 政 晴